

東京都文京区湯島三丁目一七番〇〇号
 東京大学文学部附属図書館
 〒113-8671 東京都文京区湯島三丁目一七番〇〇号

（ウツ）「圖書室回」

この冊子について
 この冊子は、お盆の行事や習慣について、お盆の由来や、お盆の飾りつけ、お盆の食べ物など、お盆に関する様々な情報を紹介しています。お盆の行事や習慣について、お盆の由来や、お盆の飾りつけ、お盆の食べ物など、お盆に関する様々な情報を紹介しています。

お盆の飾りつけ

お盆の飾りつけ

1 内側に折る
 2
 3
 4
 5 口がえして
 6



あき 秋のしおり

ほとけの子

ほうおんこう 報恩講

恩徳

—ありがたいといひんじ—

いまから七五〇年ほど前の十一月二十八日、親鸞さまは九十年のご一生を終えられました。

その親鸞さまがご生涯をかけてあきらかにしていただいた教えを聞き、「ありがたいございます」と感謝するのが報恩講のおつとめです。

私たちが「ありがとう」と言うのはどんな時でしょうか。自分の欲しいものが手に入った時、自分の願いごとがかなったときなど、自分が何か得をした場合だけではないでしょうか。自分の損得をものさしにして、ありがたいか、ありがたくないかを判断しているのです。

ところが、このものさしほど当てにならないものはありません。状況によってコロコロと変わるからです。欲しくてたまらなくて買った物でも、時間がたつてみれば部屋の片隅にゴミのようにほったらかしにされている、ということがよくあります。買ってくれた人に「ありがとう」と言ったことなどは、とつくに忘れてしまつていきます。

自分にいのちが与えられたことを「ありがたい」と感じたことのある人は、どれほどいるのでしょうか。多くの人は、自分が生きていることをあたりまえのように思っているのではないのでしょうか。しかし、自分で心臓を動かすことができる人は一人もいません。また、いやなことがあつても、心臓は黙って打ち続けてくれています。そのような、私たちが日ごろ考えたこともないようないのちの意味を教えてくださいましたのが親鸞さまです。すべてのものが平等に尊いいのちを与えられていることを示され、傷つけ合うことがどんなに悲しいことであるかを教えてくださいました。

親鸞さまは、私たちが欲しがっている物を与えてくださるわけはありません。私たちが損得のものさしを超えた世界に生きること願つておられるのです。報恩講をおつとめするのは、親鸞さまの教えを聞いて、そのような世界に生きる者となるためです。

